

二十 近江町市場の喧騒



「年の暮れ、金沢の台所『近江町市場』は活気にあふれます。武蔵ヶ辻交差点の一角に、180軒あまりの店がひしめくこの市場では、金沢ことばが、あちらこちらに飛び交います。もうすぐ新しい年が始まります。」

かいせつ



近江町市場は土地の人が親しみをこめて「おみちょう」と呼ぶ金沢市民の台所です。天正8年(1580年)頃よりはじまった朝市がその前身と言われ、その後、享保6年(1721年)に各地の市場が集められ現在の骨格ができあがりました。その名称は、近江商人が手広く商いを行なっていたことに関連しているようです。現在、市場には180あまりの店が軒を並べます。その魅力は何といても新鮮な素材にあり、豊富な海の幸・山の幸から、風土が育んだ郷土の味まであふれるように並べられています。また、日用雑貨を取り扱う店や飲食店もあり、藩政時代以来一貫して庶民の台所を支えてきたパワーは、今も健在です。今日もあちこちで、「買わんかいね」「もっと安してま」と方言によるやりとりが繰り返され、特に夕方の店じまい時や、年末には活気はますます。最近では、市民だけではなく、観光客の姿も多く見られるようになりました。